

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市東部地域療育センター 児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	119	(回答者数)
			80
○従業者評価実施期間	令和7年10月20日	～	令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)
			20
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特性に応じた職員の関りや環境設定、また清潔で心地よく過ごせる生活空間のもと、お子さんが安心してクラスに通園している。	その日のお子さんの様子を振り返り、次回の支援について検討をしている。その中でお子さんとの関り、プログラム、環境設定など、必要に応じて適時調整をしている。 また玩具の破損やピースの個数などを日々記録するチェック表を使用し、安全な環境設定と職員共有をするシステムを導入した。	今後もお子さんとの関わりや安全・清潔な環境設定などに留意していく。 劣化しているパーテーションや机などの環境備品の入れ替えについて、購入の検討を進める。
2	お子さんの発達や保護者の意向などを取り入れ個別支援計画を作成し、説明されている。	今年度より書式を変更している。 例年通り、お子さんの評価と保護者の意向から導き出した支援目標を児童発達管理責任者とクラス職員で確認し作成している。 保護者へは個人面談の中で説明をしている。	今まで丁寧におこなってきた実践を今後も継続的に実施していくために、個別支援計画の作成と説明、また計画に基づいた支援の実施と振り返りについて職員へ周知していく。
3	こどもの安全を確保するための計画について周知され、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われている。また事故等(怪我等を含む。)が発生した際の速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について、説明がされている。	日々療育終了後の清掃時に、安全点検を実施している。不備があった場合は全体周知するとともに、即時改善をしている。 また事故やケガに繋がる可能性のあるヒヤリハット案件は職員に周知し、未然に防ぐように努めている。 事故等が発生した場合は看護師と園長・主任へ報告するとともに、その程度によって適切に対応(処置・通院・保護者報告・報告書の作成など)をしている。	今後も継続をして療育中の安全確保と療育後の改善をおこない、事故や怪我等を未然に防ぐことを第一に対応していく。 事故発生直後からのマニュアルを再確認するとともに、保護者連絡のタイミングやその後の様子確認などについても丁寧に実施することを再度周知する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クラス懇談会や保護者会等により保護者同士の交流やきょうだい向けのプログラムの開催や案内が幅広く周知されていない。	お仕事をされているご家族や外国にルーツのあるご家族が増加している中で、保護者の交流を見据えたプログラムの実施が困難な状況にある。 並行通園クラス利用者が急増している中、主な利用機関となっている地域の保育所や幼稚園等とのバランスを鑑みると、プログラムを増やすことが困難な状況にある。	現在実施しているクラス懇談会やきょうだいプログラムについて、年間予定や月の予定などで周知していく。 保護者会については担当職員を配置し、療育センターや通園療育の運営等に関して協議する体制を継続する。
2	保育所、認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	お子さんの発達や特性などを鑑みると、行事的になってしまう地域との交流が必ずしもお子さん自身の経験の積み重ねや広がりにつながることは考えにくい側面がある。 また地域の保育所や幼稚園を利用しているケースが多く、加えて実施する地域との交流は子どもにとって負荷が高いと考える。 安全に実施するための職員体制に課題が残る。	例年実施しているクラス間での交流や全体行事などの経験を丁寧に積み重ねていく中で、大きな集団での経験や情緒の安定・発達を支援していく。
3	月の予定等を通して活動の概要やねらいなどが伝えられていない。	通園日数によって毎月もしくは隔月で、クラス活動の内容やねらいについて記された予定を配布し、保護者へ伝えている。 並行通園クラスについては通園形態や療育プログラムの特性上、保護者とお会いして説明をする機会が少ない状況にある。	クラスの予定表に記載している活動内容やねらい等について、記載内容、写真の使用、書式のアレンジなどの工夫を検討していく。 並行通園クラスにおいては、保護者とお会いした機会にクラス活動のねらいやお子さんの様子などについてお話をするように努める。